

令和3年度 学校自己評価表(計画)

学校運営計画

学校運営方針	豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。
---------------	--

教育目標

- 1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。
- 2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。

指導方針

- 1 自主性の確立
 - 自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。
 - ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。
 - イ 高い価値を求める心情を育成する。
 - ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。
- 2 責任観念の養成
 - 自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。
 - ア 困難に耐え、自分の仕事を積極的に全うする気力をもつ。
 - イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。
 - ウ 規範意識を高め、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。
- 3 協力精神の育成
 - 相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。
 - ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。
 - イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。
 - ウ 正しいエチケットを身につける。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>【成果】学校運営の改善につなげるため、生徒、保護者、職員へのアンケートを実施した。生徒における規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い、おおむね成果を上げた。</p> <p>【課題】教育活動の充実に向けて、アンケート結果や意見を踏まえ、更なる教育活動に取り組む。また、生徒の進路希望実現のため、特色ある教育活動および生徒の学力向上をいっそう推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体で作り上げていく。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。</p>	生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成
	校内外の研修会への参加や自己研鑽により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚
	生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導
	総合的な探究の時間等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分な課題を発見し解決していく力を養う。	土曜活用・模擬試験・講演会・体験入学・進路情報等の充実・大学入学共通テスト受験奨励、探究学習発表会・食料科の試食会・音楽科の演奏会等の充実、活発な部活動

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学校 経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。		
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。		
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
1 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。		
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。		
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。		
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。		
	基礎学力の定着	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。		
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。		
3 学年	学力の伸長	①模試のGTZのB2以上の割合で、2年2月進研マーク模試から3年11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ②生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。		
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	①生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ②生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。		
	進路希望の達成	①大学進学における合格者を国公立60人以上、難関大3人以上とする。 ②就職希望者の100%の内定者を実現する。 ③大学入学共通テスト出願率85%		
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人。 2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、3教科学力A3以上が30%。 1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が20%。		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。 2学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が80%。 1学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が60%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
国語科	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。		
	学力の伸長 1 学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が60人以上。学究56以上が40人以上（昨年度51人、43人）。		
	学力の伸長 2 学年	2月進研共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が80人以上。学究56以上が30人以上（昨年度87人、56人）。		
	学力の伸長 3 学年	大学入試共通テスト「国語」で、平均点以上の割合が「国語」受験者の35%以上。（昨年度31.1%）。学究平均点が全国平均点以上。（昨年度－7.4点）		
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【地歴公民の授業が「わかる」実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。		
	学力の伸長	大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均点－5点以内。		
数学科	学力の伸長	3学年：大学入試共通テストの数学①で、自己採点が全国平均点以上の生徒が50人。 2学年：進研2月マーク模試の数学①で、偏差値50以上が80人以上。 1学年：進研1月記述模試の数学で、偏差値50以上が100人以上。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【数学の授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。		
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。		
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。		
	新学習指導要領への対応	主体的・対話的で深い学びの実現のために、情報収集や意見交換を行い、授業改善の取り組みを進める。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。		
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする（2.3年次は前年度との比較も行う）。		
英語科	学力の伸長	3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割以上が取得。CEFR-J A2.2レベル以上が40%以上。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割が取得。		
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。		
食物科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が75%。		
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。		
	生活技術の向上	家庭基礎・家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%。		
音楽科 ・芸術	豊かな音楽観の育成	特別講座や各種演奏会をとおして、視野を広げ、自分の音楽観を深めることができた生徒が80%		
	アンサンブル活動をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた生徒が80%		
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が75%		
情報科	情報活用技術の向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が85%。		
	情報モラルの向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が85%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりより授業実践のため、授業公開月間を年2回設定し、年間をとおして全員が授業公開を行う。また、教科会を実施し、各教科で授業改善のための意見交換を行う。		
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられるような授業改善を図る。全員が授業に関する生徒アンケートを実施する。(よくあてはまる+ややあてはまるの割合)『興味・関心、学ぶ意欲が高まる』(80%以上)『説明が分かりやすく、内容がよく理解できる』(80%以上)『授業の進め方に工夫がされていると感じる』(80%以上)『予習・復習などをしっかり行い、理解が深まるように努めている』(70%以上)『自分の学力が伸びていると実感出来ている』(70%以上)		
生徒指導	校則に基づき、服装・頭髪等の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検査を行い、各回の校則違反者を各学年6人以下とする。違反者の頭髪服装を修正させる。		
	交通安全指導を充実させる	交通安全について継続的に指導し、昨年度から交通事故件数を減らす。「チュウオウの品格」を定期的に発出し、校内・校外の生活について注意を促す。		
	安心・安全な環境で共感的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して継続的かつ段階的に指導する。またいじめアンケート等を活用し、人間関係トラブルを未然に防ぎ、トラブルが起こった場合は迅速に委員会を開催し解決に努める。		
進路指導	進路に関する有効な情報提供	学年集会時での講話や学習環境整備の内容及び配布物・刊行物の活用等について「有効」、「ある程度有効」とする教員・生徒・保護者が80%		
	進路目標の達成	・1、2年：11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上 ・3年：共通テスト出願率85%以上、国公立大学合格60名、難関大合格3名、就職希望達成100%		
保健環境	学習環境の整備を積極的に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃はまじめに取り組んだ」の回答が80%以上。		
	心身の健康問題の早期発見・対応による重症化防止	生徒アンケートで「先生方は悩みを十分聴いてくれた」「どちらかといえば聴いてくれた」の回答が80%以上。 日常の相談活動、関係職員との連携により保健室頻回来室者(年10回以上)を50人以下。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上。		
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。		
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。		
図書視聴覚情報	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。		
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%。		
	情報関連機器の維持、管理とともに操作法などをサポートする。また、日常の教育活動を積極的に情報発信する。			
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。		
	PTA役員による中央グッズの企画、販売	学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただく。		
人権教育同和教育男女平等教育推進	人権教育、同和教育、男女平等教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育、男女平等教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって理解が深まった」との回答が85±5%。		
	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が85±5%。		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価		
特別 支援 教育 推進	生徒への支援、教員間の 情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携 や実態把握リストの作成により、 悩みを抱える生徒の情報や対応を 職員で共有し、「生徒の対応に役 立てることができた」「どちらか といえばできた」とする職員の割 合が75%。				
	個別の指導計画の作成と 個別指導	支援が必要な生徒に対して、個別 の指導計画を作成し、「計画的・ 組織的に指導を行うことができ た」「どちらかといえばできた」 とする割合が70%。				
成果と 課題					総合 評価	